

ダラーヴィのパブリックスペースにおける住民交流調査

報告書（速報版）

2024 年 11 月

豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系

小野悠研究室

（学部 4 年：松田青空）

アンケート調査概要

インド・ムンバイに位置するダラーヴィは、アジア最大のインフォーマル市街地として知られている。かつては沼地だったこの地域には、全国各地から異なる背景を持つ人々が移住し、時に分離しながらも融合し、多様な言語、宗教、産業が共存する豊かで多様なコミュニティが形成されている。本調査では、ダラーヴィ内のパブリックスペースを利用するグループについて、各地区の特徴を明らかにすることを目的とし、グループ間の関係性、使用言語、構成する個人の特性に焦点を当てたアンケートを実施した。

調査対象地であるムンバイは、インド最大の商業都市であり、インド準備銀行やボンベイ証券取引所といった主要な金融機関や、ゴドレジ、リライアンスなどの大企業の本社が集まる一方、広大なスラム街も抱えている。その中には、窯業を営むKumbharwada、プラスチックリサイクルや被服産業が集積する13th Compound、伝統的な漁業コミュニティが暮らすKoliwadaなど、多様な産業で生計を立てる人々が生活している。

本調査では、ダラーヴィ内の13th Compound、Koliwada、Kumbharwadaという3つの地区におけるパブリックスペースで活動する計63グループ（184人）を対象にアンケート調査を行った。13th Compoundはダラーヴィの西側に位置する産業集積地で、KoliwadaとKumbharwadaは住宅街である。各地区はそれぞれ徒歩で10分ほどの距離にある。

Table 0.1 アンケート調査概要

実施期間	2024年10月
実施地域	インドマハラシュトラ州ムンバイダラーヴィの3地区 13th Compound：産業の集積地 Koliwada：伝統的な漁業コミュニティ Kumbharwada：窯業を生業とするコミュニティ
回答数	63グループ、184人 13th Compound：20グループ、55人 Koliwada：21グループ、62人 Kumbharwada：22グループ、67人 各地区でパブリックスペースを利用する2人以上のグループ自宅に対して対面形式で実施。同時にそのグループに属する個人についても尋ねた。
アンケート項目	グループの関係性、会う頻度、使用言語、性別、年齢、居住地、居住年数、雇用形態、職場、出生地、母語、宗教、等

アンケート調査結果

Section1 Group

グループ数について見ると、13th Compoundでは2人グループと3人グループがそれぞれ45%であった。Koliwadaでは2人グループが全体の47.6%を占め、次いで3人グループが23.8%であった。Kumbharwadaは2人グループが全体の半数を占めた(Figure 1.1.1)。

次にグループ間の関係性を尋ねた。13th Compoundでは「友達」と回答した人が全体の80%であった。また「同僚」「同郷」と回答した人がそれぞれ20%であった。Koliwadaでは「近所の人」と回答した人が全体の60%程度であった。一方で「同僚」「同郷」と答えた人はいなかった。Kumbharwadaは「家族と親戚」と答えた人が全体の約60%であった。「友達」や「同僚」と答える回答者が多いことから、13th Compoundでは生業を中心にコミュニティが形成されていることが分かった。一方で「近所の人」や「家族と親戚」と回答した人が多いことから、KoliwadaやKumbharwadaは住居を中心にコミュニティが形成されていることが分かった(Figure 1.1.2)。

また会う頻度は、3地区全てで「ほぼ毎日会う」と回答するグループが多く、全体の80%以上を占めている。特にKoliwadaでは、「週に1回」、「月に1,2回」と回答したグループはいなかったため、グループの間の繋がりが強いことが分かる(Figure 1.1.3)。

グループ間の主な使用言語は13th Compoundの場合、全てのグループがヒンディー語であった。Koliwadaは全体の33.3%がマラティー語で会話しており、次いで28.6%でヒンディー語が多かった。Kumbharwadaは全体の86.4%がグジャラート語で会話していた(Figure 1.1.4)。

他のグループとのつながりも尋ねた。3地区とも比較的他のグループとの繋がりをもっていたが、特にKumbharwadaでは「全くない」「あまりない」と答えたグループが全体の4%程度で最も少なく、異なるグループ間の交流が3地区で最も多いことが分かった(Figure 1.1.5)。

実際に近隣グループとのコミュニケーション頻度を訪ねたところ、13th Compoundでは「よく会話する」と全体の半数が答えた一方で、「全くない」「あまりない」と回答したグループは全体の35%を占めた。Koliwada、Kumbharwadaも「よく会話する」と回答するグループがそれぞれ、61.9%、86.4%と最も多い割合を占めていた(Figure 1.1.6)。

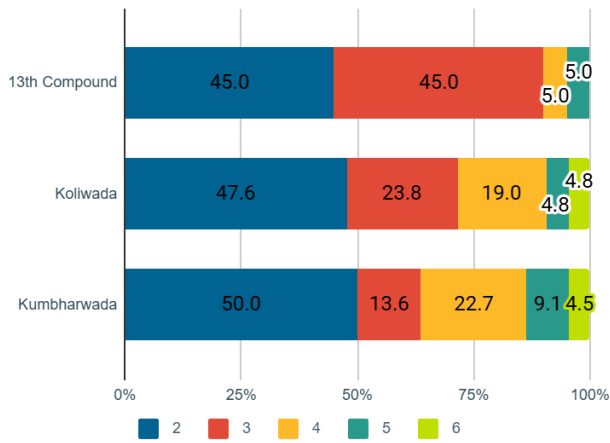


Figure 1.1.1 グループの人数

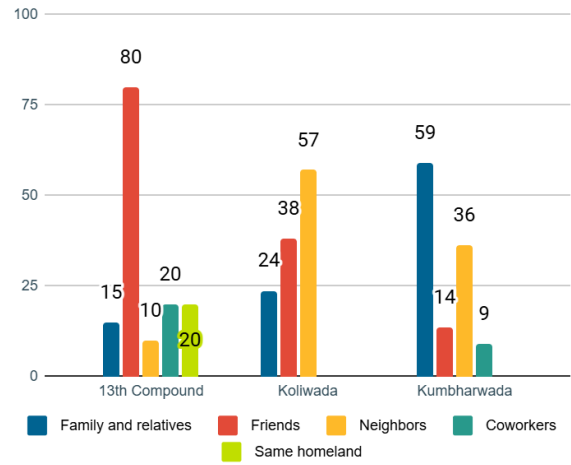


Figure 1.1.2 グループの関係性

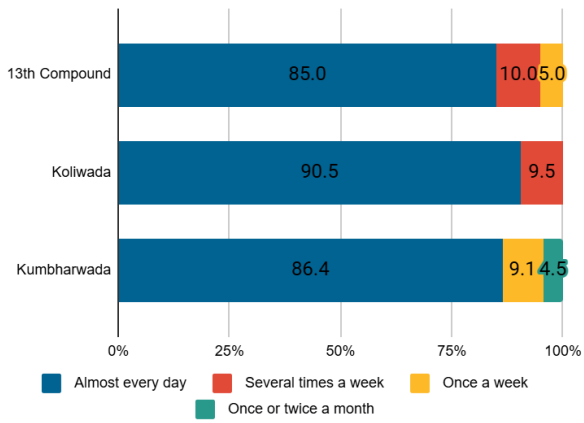


Figure 1.1.3 会う頻度

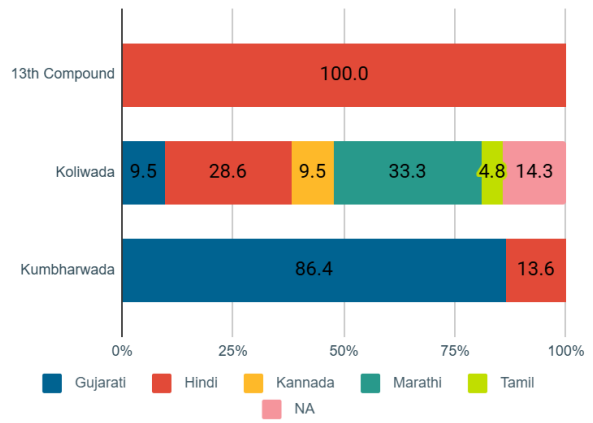


Figure 1.1.4 グループ間での使用言語

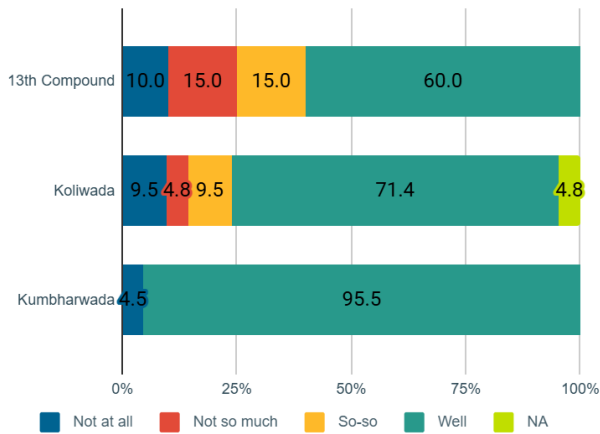


Figure 1.1.5 他のグループとのつながり

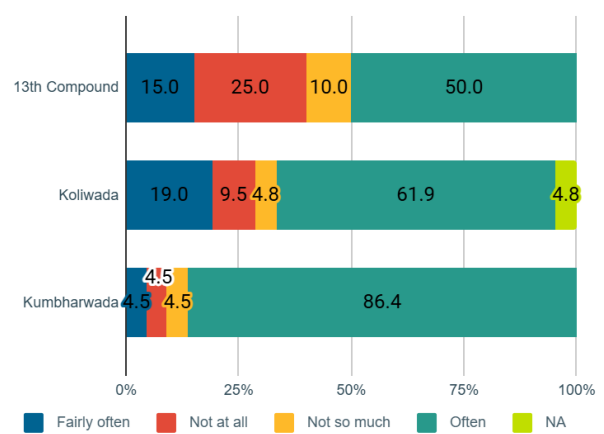


Figure 1.1.6 近隣グループとのコミュニケーション頻度

Section2 Individual

2.1 性別・年齢について

13th Compound は全体の約 90%が男性、Kumbharwada では 65.7%が男性であった。対して Koliwada では約半数が女性であった(Figure 2.1.1)。

回答者の年齢は 13th Compound では 30 代が 27.3%、次いで 40 代が 23.6%を占めていた。

Kumbharwada も同様に 40 代が全体の 28.4%、次いで 30 代が 20.9%を占める結果となり、2 地区とも 30-40 代の回答者が全体の約半数であった。対して、Koliwada では 10 代が 24.2%で、20 代が 22.6%であった。他の 2 地区に比べると 10-20 代の回答者が多く見られた(Figure 2.1.2)。

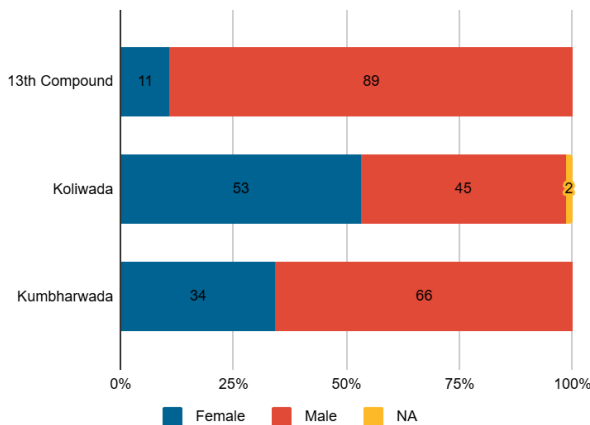


Figure 2.1.1 回答者の性別

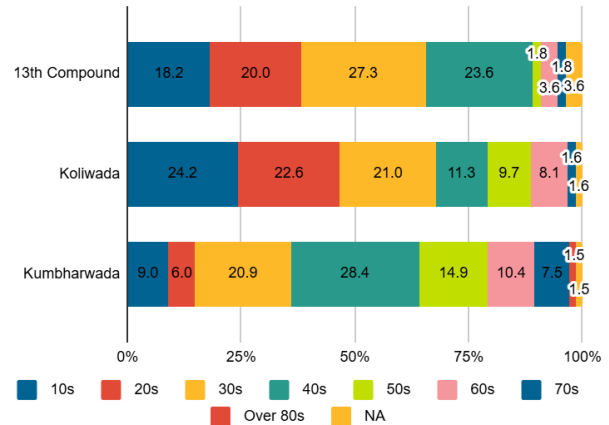


Figure 2.1.2 回答者の年齢

2.2 住居について

居住地は 13th Compound、Koliwada、Kumbharwada の 3 地区全てで、それぞれの地区内に住んでいる人が全体の 80%以上を占めているが、13th Compound のみ 10%程度がダラーヴィに住んでいた(Figure 2.2.1)。

住居形態は13th Compoundでテナントが全体の約90%を占めた。Koliwadaで先住民であるパガディが全体の64.5%と最も多く、次いでテナントが22.6%であった。Kumbharwadaでは全体の97%がビルディングオーナーであった(Figure 2.2.2)。

続いて居住年数は13th Compoundでは、6-20年住んでいる人が全体の40%を占め、次いで1-5年住んでいる人が18.2%であった。Koliwadaでは地区内で生まれた人が全体の62.9%を占め、次いで21-50年住んでいる人が21%であった。KumbharwadaもKoliwadaと同様に地区内で誕生した人が全体の92.5%を占める結果となった。13th Compoundは他2地区に比べて比較的居住年数が短い傾向がみられた一方で、KumbharwadaやKoliwadaはそれぞれの地区内で生まれている人や居住年数が長い人が多い傾向がある(Figure 2.2.3)。

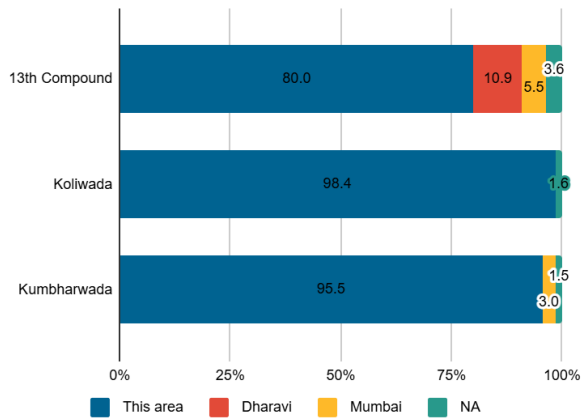


Figure 2.2.1 回答者の居住地

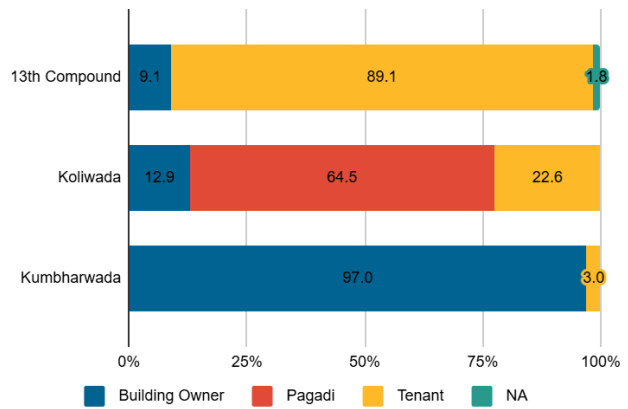


Figure 2.2.2 回答者の居住形態

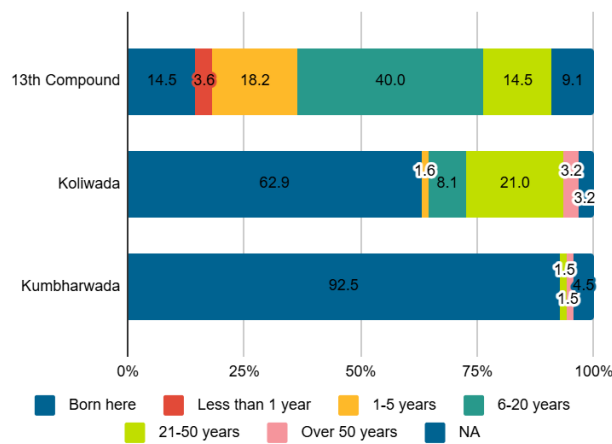


Figure 2.2.3 回答者の居住年数

2.3 生業について

職場については、13th Compound、Kumbharwadaのそれぞれの地区で「ここで働いている」と答えた人が全体の76.4%、64.2%を占めたが、Koliwadaのみ「ここで働いている」、「ダラーヴィでは無いがムンバイで働く」と答えた人がそれぞれ32.3%で同率であった(Figure 2.3.1)。

雇用形態をみると13th Compoundで従業員が全体の61.8%を占め、次いで雇い主が16.4%であった。Koliwadaでは専業主婦が全体の41.9%を占め、次いで学生が32.3%であった。Kumbharwadaでは雇用主が全体の約40%を占めた。次いで多かったのは専業主婦の17.9%であったが、従業員が16.4%、自営業が13.4%のように、失業中や学生以外の項目で大きな比率の違いは見られなかった(Figure 2.3.2)。

また事業形態について詳しく見ると、13th Compoundでは「Garmennt」が全体の32.7%を占め、次いで「Plastic Recycling」が27.3%であった。Koliwadaでは全体の80%程度が「当てはまらない」と答えた。Kumbharwadaは窯業である「ポタリ」が43.3%を占め、次いで「当てはまらない」が35.8%であった。KoliwadaとKumbharwadaは専業主婦や学生が多いため「当てはまらない」と答える住民が多く見られた(Figure 2.3.3)。

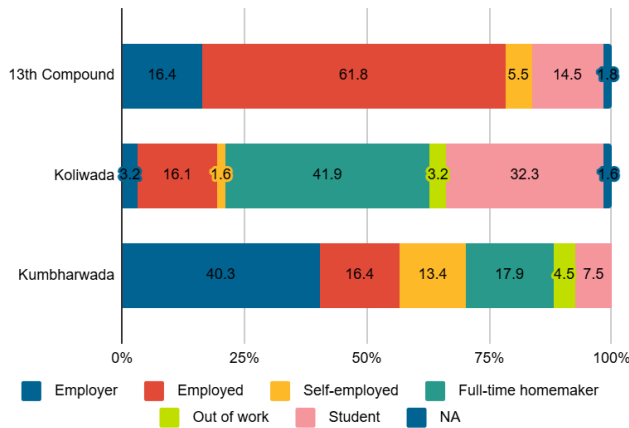


Figure 2.3.1 回答者の学校・職種など

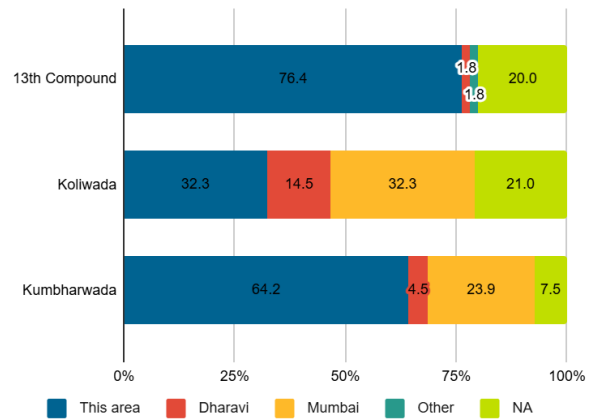


Figure 2.3.2 回答者の学校・職種など

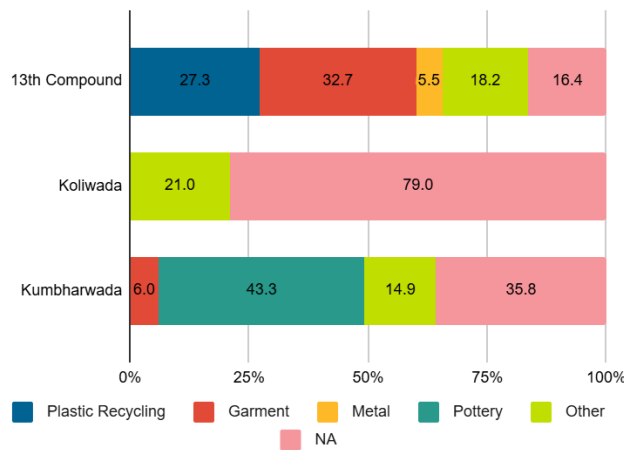


Figure 2.3.3 回答者の学校・職種など

2.4 文化的背景について

出生地については13th Compoundで「ウッタルプラデーシュ」が全体の約70%を占めた。Koliwadaでは「カルナータカ」が全体の38.7%を占め、次いで「マハラシュトラ」が24.2%であった。Kumbharwadaは「グジャラート」が全体の92.5%を占めた(Figure 2.4.1)。

また母語について見ると、13th Compoundではヒンディー語が全体の約95%を、Kumbharwadaではグジャラート語が全体の88.1%を占めた。Koliwadaではカンナダ語とマラティー語がそれぞれ30%程度で、次いでグジャラート語が21%であった。Koliwadaは異なるの母語を持つ人々で形成されたコミュニティの存在が明らかになった(Figure 2.4.2)。

最後に宗教について見ると、13th Compoundではイスラム教が全体の96.4%を占めた。対してKoliwadaではヒンドゥー教が100%を占め、調査を行ったすべての住民が同一の宗教であることが分かった。Kumbharwadaも同様にヒンドゥー教が全体の92.5%を占めた(Figure 2.4.3)。

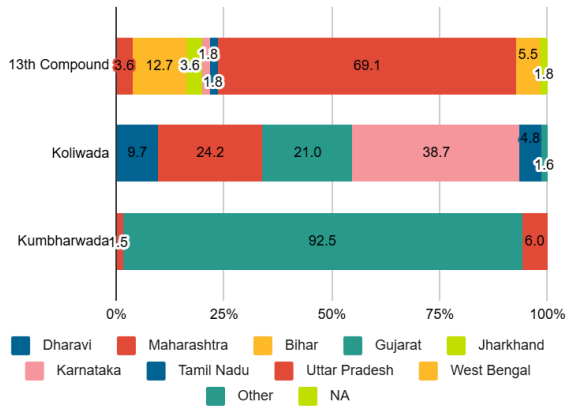


Figure 2.4.1 回答者の出生地

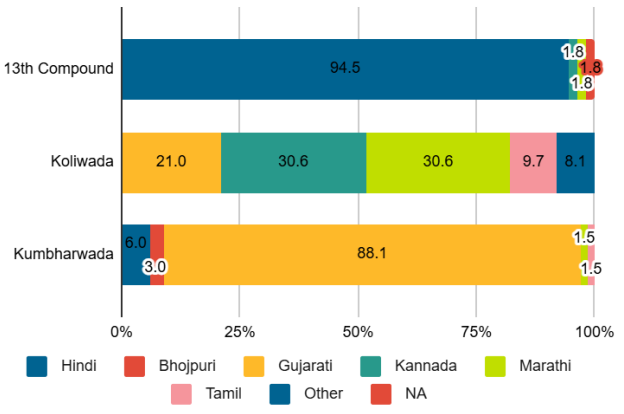


Figure 2.4.2 回答者の母語

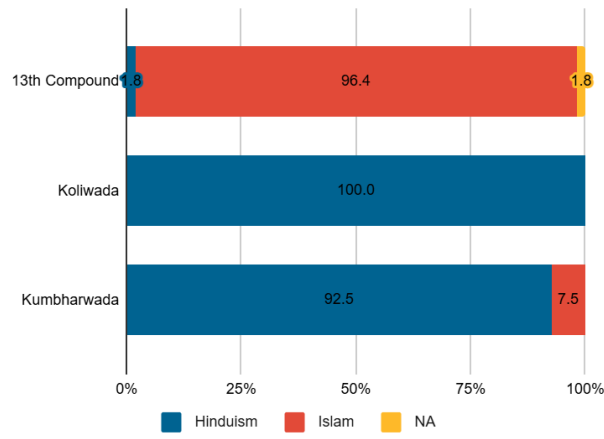


Figure 2.4.3 回答者の宗教

まとめ

本調査では、ムンバイ・ダラーヴィ内の3つの地区（13th Compound、Koliwada、Kumbharwada）を対象に、パブリックスペースを利用するグループの特性およびその構成員の特徴を明らかにした。

調査の結果、各地区でグループの規模はおおむね2～3人が最も多いものの、グループの関係性には地区ごとの特色が見られた。13th Compoundでは「友人」や「同僚」といった、仕事や産業活動を基盤とするグループが多い一方で、KoliwadaやKumbharwadaでは「家族」や「親戚」、「近所の人」といった住居や地域社会を基盤としたグループが多い傾向が確認された。これにより、13th Compoundでは産業関連のネットワークが、他の2地区では住居を中心とした地域密着型の結びつきが顕著であることが示された。また、各地区のグループにおいて、「ほぼ毎日会う」という回答が最も多く、グループ間のつながりの強さが見られた。特にKoliwadaとKumbharwadaでは、祭りや地域行事を通じてグループ間の交流が地域全体で活発であることが伺えた。

グループを形成する個人に関しては、地区ごとに利用者の層に特徴が見られた。13th Compoundでは30～40代の男性が最も多く、Koliwadaでは10～20代の男性、Kumbharwadaでは30～40代の女性が多い傾向が確認された。調査対象地に住む人々が多い中、Kumbharwadaでは「ここで生まれた」と回答した人が92.5%を占め、長い歴史を持つ地域コミュニティの存在が示唆された。出生地に関しては、13th Compoundではウツタルプラデーシュ出身者が、Koliwadaではカルナータカ州やマハラシュトラ州出身者が、Kumbharwadaではグジャラート州出身者が最も多かった。このような背景から、特にKumbharwadaでは、過去に移住してきた人々の子孫が多く住んでいる可能性が考えられる。

言語については、母語の分布に地区ごとの違いが見られた。13th Compoundではヒンディー語が、Kumbharwadaではグジャラート語が、Koliwadaではカンナダ語とマラティー語が最も多かった。ただし、Koliwadaではグループ間での共通語としてヒンディー語も多く使われており、一部の人々は母語とは異なる言語を使用していることが分かった。宗教に関しても地区ごとに特徴があり、13th Compoundではイスラム教徒が、KoliwadaとKumbharwadaではヒンドゥー教徒が多数を占めていた。

調査結果から、13th Compoundは産業活動に基づくネットワークが強く、KoliwadaとKumbharwadaは住居や地域コミュニティを基盤とするつながりが顕著であることが確認された。また、言語や宗教といった文化的背景が地区ごとのグループ形成や交流の形態に大きく影響を与えていることが明らかとなった。このような特徴は、ダラーヴィの地域特性を考慮したコミュニティ支援や政策立案に活用できる重要な基礎情報となる。